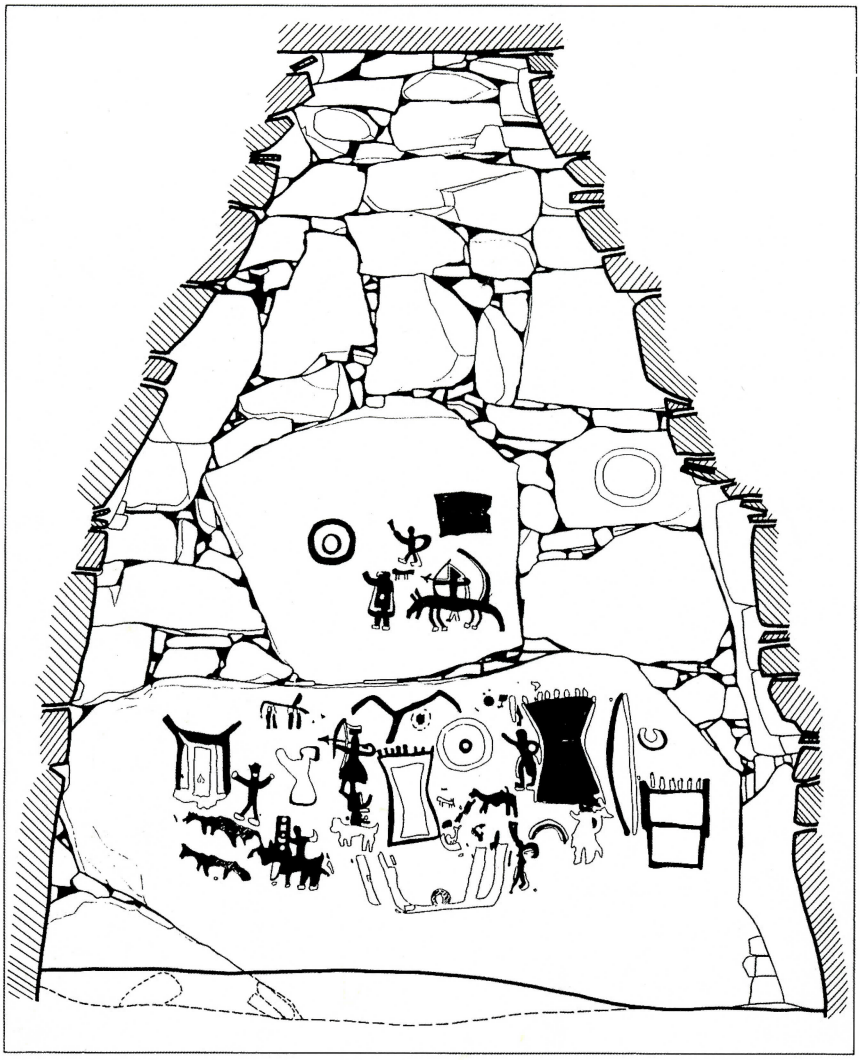
国指定史跡

五郎山古墳 (2)——死者の世界

五郎山古墳石室の奥壁に描かれた壁画（撮影：石丸　洋）



五郎山古墳石室奥壁の壁画模写図（原図：小林行雄）

冥界を彩る

奥壁とその周辺、前室の後壁――入口から見える部分に、赤色粘土と緑色粘土の他に黒の３色を用いて、各種の図像を影絵的に描いている。

奥壁に３種の矢筒（靫）を大き目に描くが、かつての荘重さはない。三角形文は姿を消し、同心円文はさして目立たず、幾何学的文様が大幅に後退しているのが特色。

代って、まとまりを欠くものの、さまざまなポーズをとる人物、動物の群像と船などが登場している。冥界を侵そうとするものへの威嚇のためではなく、亡き人を追憶し冥福を祈る思いをこめて生前の多様な活動を象徴するものとして狩を描くスタイルが考案されたものであろう。左端の建物に向って拝むかのようなポーズの赤い人物は、女性か。

全体に左への動感があり、吉井町珍敷塚古墳と好一対をなす。中央下部に船を配しており、上部の大型の鳥？を蕨手文におきかえると、構図の基本は珍敷塚古墳と同じになり、その影響を強く受けたことがわかる。

なお、壁画保護のため、石室は現在封鎖中。

（石山　勲）

1995. 3.31 発行
1997. 8. 1 第2刷 発行
2000. 3.31 第3刷 発行
2001. 8.10 第4刷 発行